

ガイダンス

今日の内容：

1. 講義の予定
2. 参考図書
3. 成績の評価
4. 講義を行うにあたって
5. 配付資料
6. 担当者
7. その他の注意
8. レポートの作成にあたって

1. 講義の予定

10月06日（月）	第1回目	ガイダンス
10月13日（月）	祝日	
10月20日（月）	第2回目	地域の環境
10月27日（月）	第3回目	地域の気候（その1・都市気候）
11月03日（月）	祝日	
11月10日（月）	第4回目	地域の気候（その2・気象の観測）
11月17日（月）	第5回目	地域の気候（その3・クリマアトラス）
12月01日（月）	第6回目	地域の気候（その4・ヒートアイランド）
12月08日（月）	第7回目	地域の空気
12月15日（月）	第8回目	地域の音と振動
12月22日（月）	第9回目	地域の気候に関する課題発表会
01月19日（月）	第10回目	地域の光
01月26日（月）	第11回目	地域の水
01月28日（水）	第12回目	地域の緑
02月02日（月）	第13回目	地域の色とアーバンデザイン
02月04日（水）	第14回目	まとめ

注1) 上記のスケジュールは、あくまで予定です。検討を加えた結果、予定が大幅に変更になることもあります。また、1回もしくは2回は、他の講師に講演をお願いする予定です。

注2) 第9回目に予定している「地域の気候に関する課題発表会」(12月22日(月)の予定)では、3班程度に分かれて、「地域の気候」に関連した課題を、自ら設定し、それに対する報告をグループで行ってもらおうことを考えています。

2. 参考図書 (〔〕内は、熊本県立大学附属図書館所蔵情報)

- [1] 『環境工学教科書 第二版』(環境工学教科書研究会編著, 彰国社, ¥3,500+税, ISBN: 4-395-00516-0, 「環境設備原論」(2年生・後期配当)教科書)〔開架2, 525.1||Ka 56, 0000275620〕
- [2] 『最新建築設備工学』(田中俊六監修, 宇田川光弘・武田仁・斎藤忠義・大塚雅之・松本敏男・田尻陸夫, 井上書院, ¥3,200+税, ISBN: 4-7530-1137-0, 「環境設備システム学」(3年生・前期配当)参考図書)〔開架2, 528||Ta 84, 0000265145, 0000314596〕
- [3] 『都市の風水土 都市環境学入門』(福岡義隆編著, 朝倉書店, ¥3,500+税, ISBN: 4-254-16332-0)〔開架2, 519||F 82, 0000220148, 0000221369, 0000221370〕
- [4] 『都市環境学』(都市環境学教材編集委員会編, 森北出版, ¥3,200+税, ISBN: 4-927-55251-3)〔開架2, 518.8||To 72, 0000275609〕

[3]と[4]は必ずしも購入する必要はありませんが、本講義に最も関連する図書ですので、できるだけ目を通してください。

また、その他の参考文献は、毎回配布する予定の資料の最後に載せる予定です。できるだけ、附属図書館の所蔵情報も載せる予定ですので、多くの文献に目を通してください。

3. 成績の評価

- 1) 出席点, 課題発表会の内容, ならびにレポートなどを総合して, 評価する予定です。定期試験は行いません。
- 2) 出席点が約2～3割, レポートが約7～8割として評価する予定です。
- 3) なお, 毎回, 講義の最後に5～10分程度時間を設け, A4判のレポート用紙に5～10行程度, その回の講義の感想・意見・要望などを書いて提出することで, 出席点とします。3年生前期配当の「住環境調整工学」と同じやり方です。

4. 講義を行うにあたって

- ・シラバスの通り、この科目を履修する受講生の目標は、私達を取り囲む居住環境をより良くするためには、環境調整の立場からだけでも、数多くの問題を考える必要があることを理解し、自ら進んで問題解決に取り組む姿勢を身に付けることです。
- ・シラバスで示した受講生の目標に沿って、この講義では、環境調整・設備分野に関連して、皆さんに知っておいてもらいたいと担当教員（辻原）が考える話題をできるだけ多く提供することを目的としています。したがって、それぞれの回の講義では、なかなか深い内容まで踏み込むことができません。そこで、配布資料には、数多くの様々な資料を載せるようにしています。自習の際の参考になるようにと考えてのことです。また、参考文献も（附属図書館の所蔵情報を含めて）数多く配布資料に載せる予定です。講義を聴いた後に、自ら、勉強を深めてもらうことを強く望みます。なお、上記の趣旨から、配布資料は穴埋め式とはしていません。辻原担当の「環境設備原論」（2年生後期配当）では、配布資料を穴埋め式としていましたが、講義の性格が異なる点を十分理解して下さい。また、上記の趣旨から、配布資料の枚数が多くなります。ただし、大学の予算の関係から、カラー印刷をすることは現在のところ不可能です（大学事務局側に、カラーで配布資料が作成できるように要望は出しています。）。
- ・この講義は、「演習」ではなく、あくまで「講義」ですので、「演習」で行われるような課題の取り組み方を採用することは、あまり考えられません。しかし、以前からの要望に応えることも必要かと考え、課題発表会の設定をしています。
- ・講義では、パワーポイントを用います。スライドの内容と配布資料の内容が一致していることもあれば、あまり一致していないこともあります。また、配布資料の順番とスライドの順番がずれることもあります。これは、毎年、配布資料とスライドの改訂作業を行っているのですが、時間の都合上や最新の情報を提供するためにスライドの改訂を優先することが多々あることによります。特にこのような場合は、是非、配布資料の余白やノートなどにスライドの内容に関するメモを取り、自習の際の参考としてください。

また、配布資料は前述のように今後の自習のための参考資料の意味もありますので、スライドを用いて説明しない内容もあります。逆に、ビジュアルに見てもらった方が良いものなどは、配布資料にはない内容でもスライドで提示することがあります。配布資料とスライドの性格の違いを考え、両者を見比べながら講義に参加し、必要であれば、配布資料の余白にメモを取るなどして対応してください。

なお、これを機会に、是非メモを取る癖をつけては如何でしょうか。眠気防止にもなります。毎年、手を動かさないので眠くなると意見が見られますが、上記の点を考慮すれば、手を動かしてメモを取る場面は数多くあるはずで、自ら積極的に考えて、手を動かして下さい。なお、メモを取ってもらうことも考え、配布資料の印刷は片面にしてあります。

- ・眠気防止のためには、講義を聴いた後に、毎回必ず1つは何か質問やコメントをしようと考えながら、講義を聴くことも役に立ちます。その際には、講義の最後に書く感想・意見・要望などのためのレポート用紙を活用してください。
- ・ノートを取ることを辻原から求めることはしませんが、ノートを取らないと講義の内容が頭に入らないという場合は、是非ノートを取るようにしてください。
- ・講義とは別に、できるだけ、皆さんの進路選択の参考となるような新聞記事、雑誌記事、書籍、資料、URLなどを配布する予定です。なお、以前は、進路・就職関連の資料を配付した後、コメントしたり、情報を伝達したりしていましたが、「資料は配布するだけにして欲しい。」との要望がありましたので、説明などを行う予定は特にありません。
- ・講義の後半30分程度では、国内外の建築物のスライドを見せる予定です。これは、皆さんが様々な建築物をあまり見に行っていないと考えていることによるものです。講義の内容とは全く関係はないですが、居住環境学（もしくは建築学）の分野は、「見てなんぼ」の世界です。本当は、自分達でいろいろと見に行っておきたいのですが、せめて写真だけでも考えたものです。このスライドを見て、さらに自分でも多くの建築物を見ることを強く望みます。なお、このスライドは、講義の内容とは関係ない上に、担当教員（辻原）の好き嫌いが反映されますので、見ることを希望しない場合は、退室しても結構です。それぞれの建築物の名称などは、スライド中に示してありますが、印刷したものが必要な場合は、受講生の中の代表者がその旨を申し出てください。全員に配布することは無理ですが、要望があれば、代表者には印刷物を渡すようにします。なお、担当教員（辻原）は、皆さんにお見せするスライド以外にもスライドを持っています。それらを見ることを希望する場合は、別途申し出て下さい。講義の時間以外に見せるなどして、できる限り要望に応じたいと考えています。
- ・「どこが大事かあまり理解できなかった。」や「ポイントが何かつかめない。」との意見があります。担当教員の説明の仕方にも問題があると思いますので、できる限りメリハリを付けるよう努力しますが、皆さんが接する情報の多くは、どこが大事か強調されていないものがほとんどです。また、聴く人の予備知識や経験のあるなしによって、同じ話を聴いたとしても、重要なポイントは異なってきます。自分自身で、どこが大切か、どこがポイントかをかぎ分ける訓練をしましょう。
- ・「以前の講義と重複しているものがある。」との意見がありますが、例え同じ内容を対象としていても、その内容へのアプローチが異なることがほとんどです。その点を理解してください。なお、担当教員が非常に重要だと考える内容については、同じ内容を同じように繰り返し説明することもあります。
- ・「具体的に何を学んだかよくわからない」のは、担当教員のプログラムの組み方にも問題があるとは思いますが、受講生本人の問題もあると思われます。自分が知りたいと思うことだけを

「教えられる」のが、大学の講義ではないと思います。この講義を聴いた上で、自ら問題点を探り出し、自分の手で解決していくのが、「学び」ではないでしょうか。もはや3年生も後期です。与えられ、教えられるだけの状態から、是非抜け出してください。

また、「これといって何かを学んだという達成感をあまり感じられなかった」という意見がありますが、これまで述べてきたようにこの講義の狙いや性格を良く理解し、積極的に自ら学んでいこうとすれば、問題は解決するように思います。

さらに、「この授業は必要なのか」という意見がありますが、担当教員としては、「皆さんに知っておいてもらいたい」と考えることに関する情報を提供しているつもりです。

- ・「ガイダンスで重複する部分があるのは無駄」との意見もありますが、中には、何度説明しても理解してもらえない人もいますし、初めて受講する学生もいる可能性もありますので、理解してください。また、辻原としては、決まり事などは、その都度きちんと説明したいと考えています。

5. 配付資料

講義で配布する資料などは、できるだけ毎回下記のホームページにアップロードしておきますので、必要な人や欠席した人は、各自でダウンロードしてください。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/chiiki.html/chiikikan.html>

なお、上記の作業は、学生の皆さんの利便性を考えてのことですが、担当教員個人としては、 $+\alpha$ のサービスと考えています。欠席した場合などは、友人にコピーさせてもらうなど、皆さん各自で対応するのが本来の姿だと考えています。この点から、授業中に見せるパワーポイントのスライドの内容についてはダウンロードできるようにはしていません。また、スライドの内容をダウンロードできるようにしないことについては、著作権法上の問題もあります。

6. 担当者

担当者の連絡先などは、以下の通りです。

准教授・辻原 万規彦

部屋：環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4階南西角

電話：096-383-2929（内線 492）

e-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp

助手・安浪 夕佳

部屋：環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4階南側中央付近／3階南西角細井研究室

電話：096-383-2929（内線 482）

e-mail：yasumani@pu-kumamoto.ac.jp

7. その他の注意

- ・担当教員（辻原）に対して生理的嫌悪感などを覚える場合には、その時点でその旨を申し出てください。担当教員（辻原）自身の努力で改善されるような内容であれば、極力改善するよう努めます。しかし、担当教員（辻原）自身による改善が難しくなかつ正当だと考えられる理由を書面で提出した場合には、成績評価の際に、出席点に関する考慮を行います。ただし、その場合でもレポートは、必ず提出してください。
- ・講義時間以外で、担当者に質問をする際には、メールや電話で事前に連絡した方が確実に時間を確保できます。担当教員（辻原）のオフィスアワーは月曜日4時限（14:30～16:00）ですが、この時間帯といえども緊急の会議などの用事が入る可能性もあります。事前に連絡がない場合は、やむを得ず対応できない可能性もあります。なお、特に携帯からメールを送る際には、送り主の氏名を明記することを忘れないでください。送り主が明記されていないメールには返答しないこともあります。
- ・担当教員（辻原）はできるかぎり標準語で話すように努めていますが、これまでの習慣上どうしても関西弁で話してしまうこともあります。しかし、漫才師などではありませんので、面白い話はできません。
- ・講義の進み具合によっては、講義の時間を延長することもあります。講義終了のチャイムが鳴った後、やむを得ない事情がある場合は、退室しても結構です。講義時間の延長があり得ることに充分注意し、その後の予定を組んでください。
- ・講義などの説明の際には、できるかぎり具体的な事例を交えて説明するように心がけていますが、これが雑談に聞こえる場合、もしくは本当に単なる雑談の場合で、それ以上聞きたくないと思われる場合は遠慮なく指摘してください。速やかに次の説明に移るように努力します。
- ・担当教員（辻原）に対して、これまでに、「皮肉的な言い回しが良くない。」、「人としてひねくれている。」、「主観的すぎる意見があった。」、「話し方にとっても不快感を覚えた。言い方（が）嫌味すぎる。」などの意見がありました。担当教員（辻原）としては、できるだけ中立の立場から素直に皆さんに話をするように心がけていますが、上記の様に感じた際には、遠慮なく指摘してください。直接指摘しにくい場合は、講義の最後を書く感想・意見・要望などのためのレポート用紙に書くなどして指摘して下さい。できるかぎり、改善するよう努力します。

8. レポートの作成にあたって

レポートは、人に読んでもらうためのものです。従って、自分で何を書いているのかわからないようなレポートは提出しないでください。レポートには必ず読み手があります。レポートの評価を行うのは、読み手です。書き手が評価を行うものではありません。

まず、第一に、読み手に理解してもらえらるるよう、わかるよう、書くことを心がけてください。

→さらに一歩踏み込んで、読み手を納得させるためには、どのようなレポートを書けばいいのか、を考えてレポートを作成するよう心がけて下さい。

この講義では、定期試験のかわりにレポート課題を出題する予定ですが、それまでにレポートの書き方について各自で充分検討し、習熟していることを強く望みます。

熊本県立大学附属図書館 (<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~tosho/index-j.html>) の『図書館資料検索』で、「論文作法」をキーワードとして検索すると、論文やレポートを書く際に参考となる様々な本がでてきますので、参考にしてください。熊本県立大学附属図書館に所蔵されている本や辻原の知っている範囲では、例えば、以下のような本を、読んでみては如何でしょうか。

【入門編-学生生活の基本と共に】

- 1) 『大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ』(学習技術研究会編著, くろしお出版, 2002年4月, 1,900円+税, ISBN:4-87424-247-2) [開架2, 377.15||G 16, 0000261688]
→改訂版あり(2006年10月, 1,800円+税, ISBN:4-87424-355-X)。[開架2, 377.15||G 16, 0000311457]
- 2) 『広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン』(北尾謙治ほか, ひつじ書房, 2005年5月, 1,600円+税, ISBN:4-89476-242-0) [開架2, 377.15||Ki 71, 0000293704]
- 3) 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(松本茂・河野哲也, 玉川大学出版部, 2007年3月, 1,400円+税, ISBN:978-4-472-40343-9) [開架2, 002.7||Ma 81, 0000309779]
- 4) 『情報と知識の海-現代を航海するための 知のナビゲーター』(中澤務・森貴史・本村康哲編, くろしお出版, 2007年4月, 1,800円+税, ISBN:4-87424-372-5) [開架2, 377.15||N 46, 0000309780]

【基礎編-1年生からのレポート作成のために】

- 5) 『講談社現代新書 1603 大学生のためのレポート・論文術』(小笠原喜康, 講談社, 2002年4月, 680円+税, ISBN:4-06-149603-4) [文庫本, 080||49||1603, 0000259322]
- 6) 『講談社現代新書 1677 インターネット完全活用編大学生のためのレポート・論文術』

（小笠原喜康，講談社，2003年8月，720円＋税，ISBN：4-06-149677-8）〔文庫本，080||49||1677，0000273985〕

- 7) 『レポート・論文・プレゼン スキルズ レポート・論文執筆の基礎とプレゼンテーション』（石坂春秋，くろしお出版，2003年3月，1,400円＋税，ISBN：4-87424-273-1）〔3F和，816.5，9000006625〕
- 8) 『Wordを使った 大学生のための論文作成術 思考技術・情報処理技術を書く力へ』（佐良木昌，明石書店，2004年10月，1,600円＋税，ISBN：4-7503-1983-X）〔3F和，816.5||Sa 69，0000290926〕
- 9) 『レポート・論文の書き方入門 [第3版]』（河野哲也，慶應義塾大学出版会，2002年12月，1,000円＋税，ISBN：4-7664-0969-8）〔3F和，816.5||Ko 76，0000285910〕
→初版（1997年発行）は〔書庫，816.5，9000002010〕
改訂版（1998年発行）は〔3F和，816.5||Ko 76，0000222982〕，〔書庫，816.5||Ko 76，0000252694〕

【応用編-4年生での卒業論文も視野入れて】

- 10) 『平凡社新書 103 ぎりぎり合格への論文マニュアル』（山内志朗，平凡社，2001年9月，700円＋税，ISBN：4-582-85103-7）〔文庫本，080||H 51||103，0000275301〕，〔書庫，080||H 51||103，0000270456〕
- 11) 『NHK ブックス 954 論文の教室 レポートから卒論まで』（戸田山和久，日本放送出版協会，2002年11月，1,120円＋税，ISBN：4-14-001954-9）〔文庫本，080||Nh 2||954，0000276644〕
- 12) 『これで安心「卒論」ラクラク基本マニュアル 卒論応援団 2』（澁谷恵宜，クラブハウス，2000年7月，¥1,980円＋税，ISBN：4-906496-24-5）〔3F和，816.5||Sh 23，0000275899〕，〔書庫，816.5||Sh 23，0000241701〕，〔書庫，816.5||Sh 23，0000270566〕
- 13) 『大学生と大学院生のための レポート・論文の書き方』（吉田健正，ナカニシヤ出版，1997年5月，1,500円＋税，ISBN：4-88848-378-7）〔3F和，816.5||Y 86，0000263004〕
- 14) 『これからレポート・卒論を書く若者のために』（酒井聡樹，共立出版，2007年5月，1,800円＋税，ISBN：978-4-320-00574-7）〔3F和，816.5||Sa 29，0000309758〕
- 15) 『学生・院生のための研究ハンドブック』（田代菊雄，大学教育出版，2001年5月，1,500円＋税，ISBN：4-88730-437-4）〔開架2，002.7||Ta 93，0000271825〕
- 16) 『サイエンス・ライティング入門』（落合洋文，ナカニシヤ出版，2007年3月，1,500円＋税，ISBN：978-4-7795-0139-5）〔開架2，407||0 15，0000309920〕
- 17) 『建築系学生のための卒業論文の書き方』（山口廣・笠井芳夫・浅野平八，井上書院，2008年4月，1,800円＋税，ISBN：978-4-7530-1056-1）〔所蔵なし〕

上記の全てに目を通す必要は全くありませんが、今後、4年生になって研究室に配属された際にも必要になるでしょうから、気に入ったものを1冊くらい手元に置いておくとよいと思います。

その他にも、いろいろな本がありますので、大学の売店（丸善）や下記の本屋などで探してみてください。

1) 紀伊國屋書店熊本光の森店

〒869-1101 菊陽町津久礼 3310(51 街区) ゆめタウン光の森内 2 F

電話：096-233-1700 FAX：096-233-1701

営業時間：10:00～22:00

<http://www.kinokuniya.co.jp/04f/d03/kumamoto/02.htm>

2) リブロ熊本店

〒860-0805 熊本市桜町 3-22 くまもと阪神 6 F

電話：096-211-9033 FAX：不明

営業時間：10:00～19:30

<http://www.libro.jp/web/shoplist/kumamoto.html>

3) 喜久屋書店熊本店

〒860-0807 熊本市下通 1- 3- 10 ダイエー熊本下通店 6 F

電話：096-319-8581 FAX：096-319-8583

営業時間：10:00～21:00

<http://www.blg.co.jp/kikuya/zip.htm#kumamoto>

4) 蔦屋書店熊本三年坂

〒860-0801 熊本市安政町 1- 2 カリーノ下通 1F- 2F

電話：096-212-9111 FAX：096-212-9890

営業時間：10:00～深夜 1:00（金・土のみ～深夜 4:00）

<http://www.tsutaya.co.jp/shop/tenpo.zhtml?FCID=8000>

5) 熊本大学生協の学生会館ショップ書籍コーナー

〒860-8555 熊本市黒髪 2- 40- 1

電話：096-345-9451 FAX：不明

営業時間：8:10～19:00（土日祝休み）

<http://ha9.seikyuu.ne.jp/home/kumamoto-u/index.html>

また、下記のホームページなどが参考になるかもしれません。その他に、自分でも、「レポート」、「書き方」などのキーワードで検索してみてください。大量に検索できるはずです。

<http://frds.itakura.toyo.ac.jp/~takeuchi/general/ronbun.htm>

http://www.ceser.hyogo-u.ac.jp/naritas/write_paper/paper.html
<http://lapin.ic.h.kyoto-u.ac.jp/thesis.html>
<http://www.nanzan-u.ac.jp/~urakami/class.html>
<http://www.logicalskill.co.jp/>
<http://www1.gifu-u.ac.jp/~shogo/informationliteracy/index.html>
<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/physics/classes/reporting/wreport.html>
<http://www.mycon10ts.com/top.htm>
http://www.geocities.jp/chigasaki_rihabilitation/report.html
<http://www.reportreport.jp/>
<http://www2.ikuta.jwu.ac.jp/~kuto/Writing/HowToWrite.html>
<http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~oda/essay1.html>

注) これらのサイトの内容については、自分の責任で確認して下さい。辻原自身が全ての内容を確認したわけではありません。